

震災のDay Press 創刊号

発行元:震災リゲイン 発行人:相澤久美 編集人:高木伸哉 編集部 〒106-0044 東京都港区東麻布2-28-6 tel 03-3584-3430 fax 03-3560-2047



宮城県石巻市・雄勝 お神輿復活に見る復興と支援の姿

これまで通りのことをこれまでになかった形で



筑波大学の藤原宣也さん(左)と
地元・雄勝の高橋頼雄さん

「前に普通にやっていたことをできるかぎり前みたく普通に当たり前に続けたかった」。宮城県石巻市雄勝の高橋頼雄さんにとって“復興”の大事な一つがこれだった。だから、お祭りはただのお祭りではなかった。津波の前と同じように普通にお祭りをやってお神輿を上げることが、津波の後の今とても大切なことのように高橋さんには思えた。

けれどまずは暮らしとか漁業とかを元に戻していくことが第一で、「そんななかでお祭りをやりたいとは、地元の人間としてはなかなか言い出しにくくてな」。ボランティアに訪れていた筑波大学の藤原宣也さんはこれ聞いて、「だったら自分のような雄勝の人ではない人間がやらなければならないんじゃないか」と思った。二人で、津波に壊された神社から使えそうな木を拾い集めにいった。この神社の木を使って、同じく津波に壊されたお神輿を新しくつくりなおすことができたら…

藤原さんのおじいさんは、横浜でお神輿職人をしてきた人だった。ずっとそのそばで育ってきた孫の藤原さんは、お神輿とお祭りが地域で暮らす人たちにどれだけ力を与えるか、よくわかっていた。子どもの頃からおじいさんの手伝いをしてきて大体のつくり方は知っていたが、津波に呑まれた神社の木は傷みが激しく、新しいお神輿の木材として相応しい状態ではない。初めは「無理だからやめておけ」と言っていたおじいさんも、いつしか助けてくれるようになっていった。困り顔の孫に嬉しそうに教えてくれ、そのとおりにやるとたしかにうまくいく、「さすがじいちゃん」と藤原さんは思った。

お祭りまでちょうど一月となった朝、おじいさんが亡くなった。藤原さんはしばらくの間何も手につかなくなり、そしてお神輿のことも諦め

かけた。だけど、おじいさんが最期に何を願っていたかを思い、考え、もう一度お神輿に向かった。そして迎えた11月のお祭りの日。藤原さんと彼の仲間たちが雄勝の空に担ぎ上げたお神輿の姿に、「本当にやってくれたのか」と、雄勝の高橋さんは顔をくしゃくしゃにして喜んだ。藤原さんはあえて、関東湘南地域伝統の形で東北宮城雄勝の新しいお神輿をつくった。震災がなかったらあり得なかった縁のもとに震災がなかったらあり得なかったものが新しくつくられたという意味を、藤原さんはそこに込めたかった。

自然を前にしたときの無力さを人は忘れるべきではない。だけど人は、無力ではあっても決して弱くはない。地元の人たちにしかできないこと、地元じゃない人たちだからこそできること、お神輿も人との縁も震災前にはなかったものを新しく生み出しながら、人の営みは続いていく。

この7月の海の日には再び雄勝の空にお神輿が舞う。高橋さんが願う「これまで通り」の夏祭り、藤原さん作の「これまで」にはなかったお神輿が。

雄勝 店こ屋 七夕祭
7/14(土)～15(日)10:00～16:00(両日とも)
雄勝仮設商店 店こ屋街(旧石巻雄勝総合支所)
※お神輿は1日3～4回。一般参加者やボランティアも担ぎ手になれます!



宮城県南三陸町伊里前集落 新しいまちづくり

取材・文 中川哲雄



第1回 「伊里前はなくなった…」

漁師にとって「命」ともいえる船を津波から守るには沖に出ること。だから私は地震のあと、私の船「拓陽丸」に乗って沖に逃げました。魚群探知機でいつもは水深80メートルのところから90メートルくらいまで膨れ上がって、これはとんでもないことになるなど……。

携帯はつながらないし、ラジオでも私の町のことは何も言わない。船の上でも突き上げられるような余震があつてそのうち雪も降ってきて、とにかく早く朝になってくれとそればかり思いながら夜中を過ごしました。空が明るくなつてきて、衛星電話を装備している船がそばを通つたので私の集落のことを尋ねました。

「何も残っていない、伊里前はなくなつた」

その言葉を聞いた私は、一本だけ取つておいた煙草に火をつけ、甲板の上で煙を風に揺らしながら、私の集落、伊里前があつたはずの方角をしばらくただ見ていました。

港まで船を戻らせ、瓦礫だらけの海面をなんとか進んで陸に上がりました。避難所になつていた中学校までのぼつていて家族の無事を確認し、前町長の牧野さんに会いました。

「何百年も続いてきた伊里前にはもう誰も住めないだろう」と牧野さんは言いました。「この上の土地をお前に任せるから、そこに新しく伊里前の町をつくってくれ」

この言葉が私の胸に突き刺さりました。(つづく)

手持ちのガイガーカウンターで 測れない食品と土壌を測る

品質検査会社が続ける放射性物質測定サービス
日本ラボテック株式会社

私たちの身の回りで放射性物質がどの程度あるのか、無いのか、すこしずつわかりはじめてきた。ホットスポットならば、家庭でガイガーカウンターを購入して測れるようになった。ところが、まだまだ不安の種がなくなるのが、内部被曝だ。口から体内に入る放射能は、家庭で測れないようなごく微量でも繰り返されると深刻なダメージを受ける。食品や子供が遊び回る土壌の放射性物質検査は徹底してほしい。本当は自分が口にするものはすべて調べてほしいところだが、



日本ラボテックが使用している測定器「シンチレーションスペクトルサーベイメータ」。セシウム137、134、ヨウ素131などをそれぞれ計測できる。検査対象は農作物、海産物、肉類、土壌、水など。費用は1検体につき9,000円(税別)+送料。証明書も発行される。

に安心して出荷してもらうこと。もちろん消費者には安心して購入して、食べてもらうお手伝いができる。誰かがやらなければならない仕事だと思っています」と語る。また検査を依頼している生産者は「風評被害対策というのが第一ですが、原発から離れていてももしかしたらうちの畑や田んぼがホットスポットになっていないとも限りません。それを払拭して安心して出荷できるようになるのがありがたい」と語っている。

「福島県を中心に、生産者団体、自治体、市民グループなどで検査機器を共同購入し、自主検査を行う体制作りが広がっているものの、福島県以外でも、そうした検査サービスにアクセスできない生産者、加工業者が多いはず。不安を払拭するためにも、気軽に相談して欲しい」と日本ラボテックの担当者・間知義氏は語る。また、「うちの子がよく遊ぶ公園の砂場は大丈夫?」「うちの家庭菜園の土壌は大丈夫?」といった個人の依頼にも応えてくれるという。

食の安全、安心を守るため、生産者と消費者の間で利益を度外視しての検査サービス。多くの生産者や個人に利用していただきたいと願う。

問い合わせ先:
日本ラボテック株式会社
〒173-0004 東京都板橋区板橋 1-42-2-2 階
電話: 03-5944-1180
http://j-lc.jp/

もし生産者が自主的に作物などの放射性物質の量を計測することができれば、安心して出荷でき、消費者も安心して購入できる。そこで、衣食住に関わる商品の品質検査を行っている日本ラボテックでは、9000円(税別)という低額で放射性物質検査を開始した。試料を宅急便で送るだけで、農産物や、土壌、水、海産物などに含まれる放射性物質の量を検査することができるのだ。

企画した羽賀威一郎・代表取締役社長は「われわれ検査会社の目指すことは、農産物、海産物の放射性物質不検出を証明し、生産者



検体(土壌)を採取する生産者。

それはかなわないのが現実だ。政府や地方自治体は検査体制の充実を図るべく努力はしているものの、疑わしい地域だけ一部サンプルを取り寄せて調べるスクリーニング検査という方法しかとれない。この場合、想定外の地域や食品の汚染を見逃してしまう。想定外の事態が続いただけに、不安の残るところだろう。

あなたにもできる 復興支援!



大手業者が輸入材で建設する仮設住宅は、被災地の経済に貢献できない。「元々豊かな東北の森林材を活用して地域に経済が生まれる形で…」NPO法人日本の森バイオマスネットワークが中心となり、地域の自然学校・木材会社・工務店・製材所が宮城県登米市で進める住まいづくり。2年間という居住期間制限のある仮設住宅とは異なり、2年後に大量の廃棄物が発生する問題もない。10世帯ほどが

[寄付先] 七十七銀行 築館支店 普通 5411882 手のひらに太陽の家基金 理事長 佐々木豊志

“仮設”ではない “復興”住宅を!

支援金を送る

[手のひらに太陽の家プロジェクト]
<http://jfbn.org/taiyounoie> 電話: 0228-22-6721

入居できる個室のほか、食堂や居間など一緒に過ごせる共有スペースを設けることで、復興へ向けたステップをコミュニティの仲間たちと一緒に歩いていくことができる。竣工は6月、居住者受け入れは7月を予定。あくまでも仮設住宅ではないので公の支援はまったくなく、100%民間ベースのプロジェクト。入居者たちに息の長い支援を行っていくためには幅広い支援が必要だ。

コミュニティの再生をITで支援

[復興支援ITボランティア] <http://www.npo-support.jp/> 電話: 03-3456-1611



同NPOは市民から幅広く寄付を募り、被災地支援につなげる「アクティブドネーション」も実施。

主に岩手県内の仮設住宅などで、パソコン環境を整え住民に指導(仕事再開のチラシ作成、ブログによる情報発信、FacebookによるSNS支援など)を行う復興支援ITボランティア。「家で閉じこもりがちだった人たちが楽しみに談話室に集まってくれるようになりました」という仮設住宅支援員の声からも、単にPCスキルをサポートしているだけではないことがわかる。各IT企業等と連携しながら運

[参加方法] ITボランティアは毎月1〜2回募集。詳細は上記電話かウェブサイト。

参加する

障がい者の社会参加につながる

継続的支援を! **[JDF被災地障がい者支援センターふくしま]**

<http://jdf787.com/> 電話: 024-925-2428

福島県の障がい者とその家族は、東日本大震災や原発事故による強制避難で、過酷な現実と向き合うことになった。避難行為や避難所生活の物理的・精神的負担は大きく、一部では、精神疾患を持つ人が避難所への入所を拒否されることも起きた。JDF被災地障がい者支援センターふくしまは、2011年4月に郡山市で開設。被災障がい者の避難支援に始まり、現在は彼らの自立・生活支援を活動の軸とする。避難先での生活、

[寄付先] 東邦銀行郡山支店 普通 2281907 被災地障がい者支援センター福島 代表 白石清春

医療相談の支援、郡山の「交流サロンしんせい」や県外避難施設の設立、また自立のための仕事づくりも積極的に行う。「南相馬市で作っている缶バッジの販売・購入など、遠隔地でもできる支援もある。障がい者の方々に継続的に仕事を回せる支援を全国から求めている」と(和田庄司・事務局長)。以前の作業所を失った障がい者の自立支援が、求められる。

購入で支援する

支援金を送る



被災障がい者が制作に参加する缶バッジの売買などで仕事を応援する「つながりふくしま」企画も。
www.tsunagarimugen.com

暮らしに必要な「表現の回復」を支援

[アートNPOエイド] <http://anpoap.org/> 電話: 075-231-8607

震災は、広く表現に関わる人々にも、今後どう生きるべきかの厳しい再考を迫った。しかし、専門家が取り扱うアートだけではなく、日常に寄り添い、つくることの喜びをもたらす、手作業を通して人々が集う場を生み出す表現もある。それらは多様な価値観を示し、大切な気付きや感動をくれることもあるだろう。ならば困難なときであっても、これらもまた大切にされるべきだ。

アートNPOエイドは、いまこそこうした表現の豊かさ、大切さを見つめ直したいとの想いから誕生。被災したアーティストや団体へ物資・情報を提供し、各活動への寄付窓口も開設する。さらにアートNPO同士をつなぎ、ウェブサイトでは注目の活動を伝える動きも展開。なお寄付は彼らが支援する活動から特定のものを指定することも可能(詳細は上記ウェブサイト参照)。

[寄付先] 京都中央信用金庫 本店営業部 普通 1697735

特定非営利活動法人アートNPOリンク 理事長 佐東範一



2011年5月11日、南三陸町での追悼集会を、町内外に避難中の方々に向けUstream中継。皆が同じ時間を共有。

震災復興を 応援しよう!

—チャリティ通販—
岩手のグルメ編

第1回牛肉サミット 準グランプリの逸品

[いわいずみ短角牛串焼き] (岩泉町)



美味しさのもととなるアミノ酸を多く含む風味の良さや、脂肪分の少ない赤身の高タンパクが特徴の岩泉短角牛。「牛肉サミット2011」では準グランプリを獲得した逸品を、復興元年の今年、希望を込めて販売します。

1,350円 (50g×5本入り)
ご注文は⇒ (株)岩泉産業開発
電話: 0194-22-4434
<http://www.ryusendo-water.co.jp>

東北の海の元気を 感じてほしい



[いわて宮古の海プリン] (宮古市)

濃厚な牛乳の風味と宮古沖の海水の塩が醸し出すさわやかさ、まろやかなもちもち感が魅力。「宮古から全国に元気を」と開発に参加した宮古水産高校の女生徒3人が、海の青と雲の白を使った可愛いパッケージも担当しています。

1箱(12個入り)1,780円
ご注文は⇒ (株)岩手雪販
電話: 0193-62-3157

「震災リゲインプレス」創刊します!

東日本大震災から1年が過ぎましたが、復興はまさにこれから。また、あの震災から学び、未来に備えることも必要です。そのために、私たちひとりひとりには何ができるでしょうか? 現地で直接お手伝いをする人も、遠くから励ましの手紙を書く人もいるでしょう。この「震災リゲインプレス」は、毎回、各地の震災復興のようすを幅広くお届けします。そしてどの記事にも、現地の産品を買う、寄付する、現地で自分も参加する——といった、みなさん自身にできることや、そのヒントを詰め込んだ誌面づくりを目指します。応援よろしく願いいたします。

震災リゲインプレス編集部

活動支援金の寄付のお願い

震災リゲインでは、下記活動への皆様の支援をお願いしています。
ご検討下さると幸いです。

- 震災リゲインプレス (この情報誌) の制作
- 震災復興情報サイト「震災リゲイン」の運営 <http://www.shinsairegain.jp>
- 復興支援者と支援先を結ぶ「つなぐプロジェクト」

[寄付先] ゆうちょ銀行 ○○八店 普通 8207855 口座名: シンサイリゲイン

※表示価格はすべて税込です(送料別)。

銘酒の復活で復興を

[浜娘 純米酒 復活] (大槌町)

津波で酒蔵が流され、貯蔵タンクも醸造機械も失った赤武酒造に「“浜娘”がまた飲みたい!」の声が届き、再興がスタート。震災前の町の人口と同じ15,994本の販売を目指す「赤武酒造復興計画」にぜひご参加ください。

1800ml 2,500円、720ml 1,250円
ご注文は⇒ 赤武酒造(株)
電話: 019-681-8895
<http://www.akabu1.com>



故郷の牡蠣の復活を目指して

[山田の牡蠣くん] (山田町)

牡蠣の風味や食味を損なわない燻製+オリーブオイル漬けによって、生食とは一味違った食感を醸し出す人気の品。漁船も養殖いかだも加工場も津波で流されてしまいましたが、内陸の花巻市に工場を借りて生産再開に漕ぎつけました。



大瓶 2,500円、小瓶 1,250円
ご注文は⇒ 佐々木俊之
電話: 0198-29-5720
<http://www.yamadanokakikun.sakura.ne.jp>